



上野幌育種場より



この1年を回顧して

一 飼料作物に対する農業界全般の関心高まる

数年前までここ上野幌を訪れる方々は酪農家、畜産関係者に限られていたようです

が、今年はその範囲もグント広まり、作物育種、病理、土壌肥料、物理等と農業界のあらゆる分野の方々の来訪頻りで、数年前まで農業上における草の重要性を強調していた頃の事を想えば感無量というところだす。

ある人曰く、「最近の日本農業はクサケブいて来た」と。結構なことだと思えます。これでこそ国土、耕地の狭隘を嘆かずに食糧の国内自給が出来るというものでしょう。

このような異常なまでの飼料作物への関心は私共飼料種苗の改良、生産に従事するものには大いなる刺激であり、鞭撻の声であると責任の重大さを感じて居る次第です。

二 今年の作況を省みて

春は寡雨多照、夏以降は多雨、寡照、その上に八月早々の連続台風とこれ亦異常な気象のうちに目下サイレージ切込み、根菜取かくと最後の追込みですが、旱害、水害、雨害、風害と随分傷めつけられはしました。が、実取作物に較べるとまだまだその被害は軽いと言えましょう。

飼料栽培について今年の気象下で特に将来の参考としたことを挙げますと、
1 前半の寡雨多照時期に断然優れていた牧草はやはり「ルーサン」であったこと。

2 夏以降の多雨期に見事な生育を続けたものはライグラスとメドウフェスク、特にライグラスの春まきは例年二回の刈取りがせいぜいで、それも夏ともなれば銹病の大発生をみたが、今年はそれもなく、四回刈

りも充分出来、一〇才近くの収量も北海道で可能ではないかとの気もしております。多湿、冷涼地帯では一年牧草として今後大いに注目したいものです。

3 台風とデントコーン 例年より一ヵ月早かった台風はデントコーンの伸長期にブツカっただけに倒伏はかつてみない程の惨状を呈しているところが多いようすが、短稈の一代雑種を作ったり、また長稈のエロー等でも一本立てとしている場合は殆ど被害がないようです。葉は風で裂開していても倒伏さえなければドンドン登熟が進んでおり、九月十日現在で複交三、四、五、六、七号は糊熟から黄熟で丁度切込みの適期に達し、交四号、複交八号は乳熟から糊熟と、これまた適期間近かで初霜の心配もなく、充分実のついたものを切込むことができる状態です。

4 家畜ビートと根腐病 冷涼な年だっただけに褐斑病の被害は頗る軽微で三回位も薬剤散布した圃場では先ず枯葉が見られず根部の肥大もよく、今年は根菜も、トップも多収が期待できますが、排水不良の土地では根腐れが目立っています。ビートは排水良好の土地に作るものの重要さを今年程強く教えてくれたことはいないでしょう。

5 台風に強いソルゴー デントコーンは短稈の一代雑種でも葉の裂開が目立っています。一代雑種デントよりも伸長しているソルゴーは殆ど葉のイタミがなく、好ましい姿で出穂期に達し、今年の低温、多雨の条件下でもデントコーンに優る収量が期待できそうです。強風地帯では今一度検討してみる価値は充分ありそうです。

6 ふえて来たラデノクロバターの萎縮病 春先には白クローバーバイラス、初夏頃からはルーサンバイラスと、各地のラデノクロバリーに目立って増えて来ております。一見肥料欠乏と誤判し勝ちですが、病勢進行で減取の時は別な圃場に種子を新播、本病から離脱するのが最も手取り早い方法です。



強風地帯にも良く生育する雪印ハイブリットソルゴー(右)と複交系一代雑種デントコーン(左)

7 害虫では特に多雨多湿でノハラナメクジ、オカモノアラガイ等の発生が多く、ラデノを食害して、貴重な蛋白質源の葉を孔だらけにしています。ウリハムシモドキと共にこれら虫の出た時には速かに刈取り、BHCと消石灰を混じて二〜三回の反覆撒布が効果的です。

三 育種関係

◎今年から新たに重点的に取上げた牧草にメドウフェスクがありますが、内外の試験研究機関の御好意で相当数の品種系統を蒐

集出来、目下特性を調査中ですが、一日も早く、取敢えずラデノクローバーの混播に
適したものを選抜育成し、夏型飼料の延長
とラデノ単播の弊害を除去したいと思っ
ております。

◎ハミドリ、青刈菜豆はブーム、耐病性赤
クローバーのハミドリ、デントコーン混播
用の青刈菜豆サットンやベキンは発売後間
もない品種でありながら来場者の殆どの方
が関心をもっており、圃場でその姿に接し
一層感を深めている様子が話題の中心は春
はハミドリ、秋は青刈菜豆とちょっとした
ブームといったところでした。

◎苦味のないスイートクローバーの種子生
産は順調。

作り易く、栄養価高く、まめ科でもっと
も多収なスイートクローバー普及の隘路は



目下育成中の多収性イタリアンライグラス四倍体・マン
モスイタリヤン(右側3個体)と在来種(左側2個体)

莖葉にクマリン含量が多く苦味が強いた
に家畜の嗜好が悪かったことにあります
が、新たに育成されたスイートクローバ
(グリーンスイート)はクマリン含量は従
来のものの二〇分の一という微量で、殆ど
苦味がなく、家畜も好食する優良品種で
が、今秋は計画通りの種子生産が行なわ
れております。広く試作を希望します。

◎飼料作物の倍数性(Polyploidy)利用
進む 花や、種子なし西瓜と園芸関係作物
の倍数性利用は相当以前から行なわれてお
りますが、飼料作物についてもラデノク
ローバーは別として逐次実用化され、弊社
でも既にアルサイククローバー、ライ麦、
ペトクローザ、赤クローバーの四倍体(Tetraploid)の増殖、発売を行なうて、その多
収性で好評を得ておりますが、目下更にラ
イグラスの四倍体、家畜ビートの三倍体
(triploid)の育成研究も進めており、その
巨大で旺盛な生育にはどなたも注目して
おります。近々の中にこれらの作物も増殖
発売を予定しております。

◎園芸では枝豆の育種を重点に これは
北海道の園芸種苗界に課せられた責任でも
あろうと、最近の市場性の他に栽培地の拡
大を考慮、耐旱性(長葉、葉の厚いこと、
葉色の濃いこと、一株当葉数の多いこと等
々の形質をもったもの)、耐陰性(濃緑のも
の、落葉し難いもの等)の新たな特性をも
った品種の育成に着手し目下初期世代の選
抜を進めております。

四 原種、原々種生産

当場を中心として附近農家の委託圃場で

飼料、蔬菜を含めて約五〇品目の原種、原々
種の生産を行なっておりますが、その八〇
%迄が夏取作物だけに、多雨による収穫の
心労は想像以上のものがありませんが、ほ
ぼ計画量の生産を終了、逐次弊社生産課へ
原種の送附を行ない、既に生産課では播種
済みのものもあるようです。

五 配合飼料の研究も着々進行

今春新たに設置した飼料分析研究室の設
備器具も一応六月早々に完備し、従来の乳
牛舎(二〇頭)の他に新設の試験鶏舎(八
〇〇羽)も整備され、たまたま配合飼料の
農林省規格改定とも時期を一にし、更に江
別飼料工場の改築と、てんてこまいの前半
でしたが、最近漸く落ちていた研究を進め
ております。

◎乳牛配合では粗飼料の質的改善の傾向に
伴い低蛋白、高カロリー飼料の研究。

◎鶏配合では高カロリー飼料の研究、従来



養鶏飼料に於いても飼料と産卵率、卵重の関係を
毎日調査を続けている

の蛋白強調を改め、新理論に即したC.P.
R(カロリー蛋白比)を重視し、更に必須ア
ミノ酸を添加した新配合の研究に重点を指
向してありますが、二月ヒナ五〇〇羽のケ
ージを利用する飼養試験の現在迄の中間成績
をみても確かに生産の増強と、飼料経済の
向上が期待できるようです。

秋ビナも三〇〇を導入、ヒナの飼料研究
にも着手しました。

ともあれ配合飼料の面では江別、千葉県
松戸にある寒暖地の両飼料工場を中心とし
て、地域に適合する配合飼料規格の研究が
主眼で種苗研究に比べると発足にはハンデ
イがありますが、室内研究だけに、夏冬、
晴雨に拘らず研究が続けられ、一日も早く
皆さんに喜ばれ、家畜に好食される製品を
と頑張りが続いております。

六 まとめ

気象的には全く片寄った苦難の年だった
わけですが、しかしそれだけに例年にはみ
られない貴重な教訓も得ました。如何なる
条件下でも安定した作物の得られること、
これが農業を科学する者の忘れられない終
局の目標でしょう。その意味では天の声と
もいふべきかも知れません。

当場員二十数名、少数ではありますが、
種々な苦難を克服して自給飼料と、配合飼
料の研究にブツッかっております。そして日
本の畜産界の中に生きて行こうと。

皆様の御意見、鞭撻を希望して今年の上
野幌育種場便りいたします。(三浦)

上野幌育種場(札幌市厚別町上野幌八一
五 電話厚別局 一一一番)